

段落の役割を線でつなぐ

図解 | 形式段落・意味段落・全体の構成

段落の「どこにあるか」だけでなく、「何をする段落か」を読みましょう。同じ役割の段落をまとめると、文章の組み立てが見えてきます。

二つの段落の見方

形式段落：改行や字下げなどで区切られた一つ一つのまとまり。

意味段落：内容のつながりや役割でまとめた、大きなまとまり。一つの形式段落が意味段落になる場合もあります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 道具を探しやすくするには、置く場所を決めることが役立つ。
- ② 例えば、掃除道具を種類ごとに同じ棚へ戻すと、使いたい物を見つけやすい。
- ③ また、調理道具も使う順に並べれば、作業中に探す手間を減らせる。
- ④ ただし、戻す場所が使う人に伝わっていなければ、決めただけでは元に戻らない。
- ⑤ 置き場所を決めるとともに、表示などで使う人に伝える工夫も必要だ。

この文章の意味のまとめ

- | | |
|---------|-------------------|
| ① 基本の考え | 置く場所を決めると役立つ。 |
| ②③ 具体例 | 掃除道具と調理道具の例。 |
| ④ 限界 | 決めただけでは戻らない場合がある。 |
| ⑤ まとめ | 置き場所を決め、使う人に伝える。 |

形式段落は五つ。ここでは、役割で四つの意味のまとめに整理できます。

段落どうしの関係を読む

読み方 | 接続語と内容の両方で確かめる

序論・本論・結論

序論：話題、問い、立場などを示す。

本論：理由・具体例・比較などで、考えを詳しく説明する。

結論：検討を踏まえて、考えをまとめたり深めたりする。

文章は必ずこの三つに分かれるとは限りません。役割を読んで整理するための見方です。

主張の位置を決め付けない

1ページの文章は、①ですでに考えを示しています。⑤では、④の限界を踏まえて「使う人に伝える工夫」も加えています。

「主張は必ず最後」「最後は初めの繰り返し」とは限りません。

関係を確認する手がかり

具体化

考え → 例えば → 具体例

並列・対比

一つの例 → また／一方 → 別の例

課題と対応

限界・問題 → そこで → 改善策

まとめ

複数の例や理由 → このように → 考え

接続語だけで機械的に決めず、前後の内容がどんな関係かを確認めます。接続語がないつながりもあります。

並べ替え・省略を考えると

①話題や問いを出す段落を探す。

②「この条件」「そのため」などが何を受けるか確かめる。

③具体例・課題・改善・まとめのつながりをたどる。

④一つ省いたとき、どの説明が抜けるか考える。